

教育 ICT「活用進んだ」

県内3教員ら オンラインで報告

体育 4/24～



コロナ休校中 宿題を遠隔解説

情報通信技術（ICT）を使った先進的な授業をするマイクロソフト認定教育イノベーター（MIEE）である東北の教員が実践例を紹介するイベント「MIEEみちのくカフェ」が6月27日、オンライン形式で、初開催された。県内からは3人が登壇。新型コロナウイルスによる休校対策の取り組みや、プログラミング教育の取り入れ方などを報告した。（新村菜穂）

青森聾学校の阿保孝志朗教諭は4月からの休校時に急ぎよ、ビデオ会議などのアプリを学校のタブレット端末や生徒のスマートフォンに導入。

使いながら改善を重ね、休校中でも教員が遠隔で宿題の解説などをする時間を持つようになった。阿保教諭は「休校をきっかけに校内でICTの活用が進んだ」と語った。

弘前大教育学部付属小の八嶋孝幸教諭は図工と理科の授業の一環で、プログラミングのアプリと、連動するセンサーや明かりなどの機能を持つブロックを使った作品作りに取り組んだ。児童から「道筋を立てて物事を考える力がついた」などの感想が聞かれたことを報告した。

司会も務めたつがる市育

県内教員らが教育へのICT活用事例を報告したオンラインイベント

成小の前多昌顕教諭は、短い動画を投稿する教育用アプリを、外国の学校との交流や授業の振り返りに活用した例を解説。次回のイベントは9月ごろを予定しており、前多教諭は「忙しい先生たちがゆるく話せる場をつくってほしい」と話した。